

## 調達網の寸断 行政支援必要

新型コロナウイルス感染症でサプライチェーン（部品の調達・供給網）の寸断リスクが顕在化した。特定の国に依存する素材や部材の仕入れが滞り、製造できないなどの影響が出ており、感染の第二波、第三波が懸念される中、調達網の見直しに迫られている。

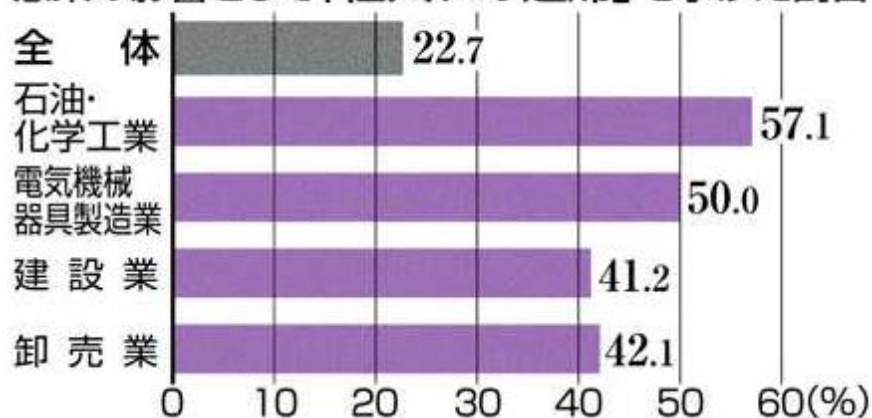
当社が五月に県内三百六十一社を対象にした調査では、22.7%が感染拡大で「仕入れの遅滞」が起きているとした。最大の仕入れ先である中国での稼働が上向き、改善もみられるが、製造業や卸売業、建設業では影響が依然大きい。

ある自動車関連部品メーカーでは、中国からの仕入れが遅滞し、予防策として国内でも部品を二重発注。結果的に採算が合わず赤字生産となるなど、対応に苦慮する企業は少ない。

世界的に感染収束の見通しは立っておらず、事業者は国内調達や海外調達先の分散化、内製化など体制見直しが必要となる。鳥取県や栃木県では、そのための設備導入や調査をする企業に補助金を交付している。本県でも調達網の再構築に向け、早急な行政支援が求められる。

（コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上 千賀子）

### 感染の影響として「仕入れの遅滞」を挙げた割合



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む（百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました）」

2020年7月2日